

3

学生と父母のパネルディスカッション

親と子の就職活動(見守り)体験談

就職活動を終えた4年生とご父母・保護者に参加いただき就職活動の実際を語っていただきました。



就職活動を意識したのはいつから？

遠藤 学生の皆さんは、去年の今頃（6月下旬）何をしていたか。就職活動を意識したのはいつですか。

神谷 昨年今頃、1日限りのインターンシップ「1dayインターンシップ」に10社ほど参加しました。参加したことで、ほかの学生との実力の差を痛感し、このままではまずいと意識しました。またどの業界が自分に合うかもわかりました。

菅原 私は公務員志望だったので、去年の今頃は宮城県庁のインターンシップに参加していました。

河西 私の就職活動の始まりは就職情報サイトにインターンシップ情報が掲載され始めた6月です。その頃から、大学の就職課やキャリアデザインセンターに行って、インターンシップ情報を調べたり、職員の方に相談しながら、自分が将来やりたいことを考えていました。

遠藤 3名ともインターンシップが就職活動のスタートと言っていると思います。就職課では毎年、卒業生（一部）にアンケートを行っていますが、今年3月の卒業生は61.9%がインターンシップに参加しました。昨年は56.4%、その前年は52.6%ですので、毎年参加者は増えています。また参加者の91.0%が3年次に参加していました。

就職活動の準備にどう取り組んだ？

遠藤 自己分析、企業研究、業界研究、筆記試験対策など、就職活動の準備はいつ頃どのように行いましたか。

河西 インターンシップ参加の前からSPI対策の本は読んでいました。10月からは就職課のSPI試験対策講座を受講しました。自己分析は「他己分析」という形で、友人と協力してお互い性格や力を入れたことなどを指摘合いました。またアルバイト先の先輩のついで、メガバンクの社員にお会いして話を聞きました。

菅原 私はインターンシップ参加後に必ず振り返りの作業をしていたので、就職活動が本格化したときにそれを再度見直して自己分析に役立ちました。

神谷 私はどういったときにモチベーションが上下したかを小学校まで遡って書いて自己分析しました。自分が辿った人生を見ながら、どの業界に向いているのかを考えました。筆記試験対策については、1、2年次に公務員試験講座を受講していたので、そこで取り組んだ数的処理が役立ちました。

遠藤 神谷さんは自己分析の結果、就職活動でどのような自己PRを行ったのですか。

神谷 サッカーサークルでの経験をもとに、チャレンジ精神が自分の強みであることをPRしました。具体的には、サークルリーダーになったもののマネジメント力不足で信頼を失ってしまったことと、そこから信頼を回復するに至ったプロセスです。

親と子のコミュニケーション

遠藤 自己分析というのは、自分一人ではなかなか難しいものです。就職課では小さい頃からあなたと接してきた親御さんに聞いてみるといいなんてことも伝えていま

コーディネーター



就職課長補佐
遠藤 清

パネリスト



前育友会副会長
湊 美代さん

息子は昨年、商学部会計学科を卒業し、現在は金融業界で働く。



育友会副会長
磯 和明さん

商学部会計学科4年の息子は内定を一応取ってはいるが、6月現在まだ就活中。



経済学部経済学科4年
神谷大夢さん

コンサルティング会社に内定。ゼミでは資本主義と現代経済について学ぶ。勉強以外には、サッカーサークルとコンビニでのアルバイトに力を入れる。



法学部政治学科4年
菅原通紀さん

宮城県の地方銀行にUターン就職。ゼミでは日本政治思想史を学ぶ。インターシップやボランティアなどの課外活動に力を入れる。



商学部マーケティング学科4年
河西桃子さん

都市銀行一般職内定。ゼミでは株価のマーケット分析など、ファイナンスについて学ぶ。サークルには入っておらず、アルバイトに力を注ぐ。

す。湊さんと磯さんは、お子さんの就職活動で何かお手伝いしたことありますか。

湊 就職期間中はあれこれ言うまいと心に決めていましたが、たまたま机にあったエントリーシート読んでしまったときは「一番伝えたいところをもう少し具体的に書いた方がいいよ」とアドバイスしました。

磯 私はキャリアコンサルタントの資格を持っているので自己分析ツールについて多少知っていますが、専修大学ではキャリアコンサルティングで使われるMBTI®(タイプ論に基づく国際基準の心理検査)を手軽に受けられるので、息子には受けてみなよとアドバイスしました。でも、息子は受けませんでした…(笑)。

遠藤 学生の皆さんは、親とどうコミュニケーションを取りましたか。

河西 父は営業職だったことがあるので、業種を考えるときその仕事内容を聞きました。厳しいこともあるとは聞きましたが、一方で「あなたならできるんじゃないの」とも言われ、就職活動中の苦しい時期に背中を押してもらいました。

菅原 私は実家が宮城県なのですが、就職活動中は週に2、3回は電話で、受けている企業のことなどを相談していました。親の意見はありがたい一方で、「公務員になりなさい」なんて言われることもあり、それはちょっと困りました(笑)。

遠藤 菅原さんはUターン就職されましたが、親御さんとうどう話されたのですか。

菅原 親から「地元に戻ってきてほしい」とは言われました。全国展開している企業の中には、若いうちは各地で働き、家族や自身の置かれた状況が変化した際には、地域限定で働くことを選べる企業もあります。説明会でそういった情報を聞き、いろいろと考えるうちに、慣れ親しんだ土地で働くのもいいと思い、最終的にUターン就職を決めました。

遠藤 宮城県の企業情報は、インターネット以外ではどう集めましたか。

菅原 就職課を利用したり、宮城県へのUターン就職を応援する企業に足を運んだりしました。

遠藤 神谷さんは公務員を目指していましたが、なぜ途中で民間企業に切り替えたのですか。

神谷 公務員試験は20科目以上あり、その勉強量についていけず2年の後半に諦めました。

解禁の3月、何が始まる？

遠藤 さていよいよ3年次の3月1日、採用広報の解禁日になると、どのようなことが行われるのでしょうか。まず名前や学校名や連絡先を登録し、「御社に興味がありますので、説明会等の情報をください」という意思表示をします。これをプレエントリーと言います。エントリーという言葉もありますが、これはその名の通り「応募する」ということになります。近年は売り手市場で学生がエントリーする企業数は減少傾向にあります。皆さんはいかがでしたか。

神谷 私は約30社にプレエントリーしました。その中から採用実績校や就職サイトなどでの評判を見て、20社に絞り込みエントリーし、1次選考に進めたのが14社です。

菅原 私の場合はプレエントリーで25社、エントリーも25社、書類選考に応募したのも25社です。

河西 私はプレエントリーを100社以上、エントリーはそこから20社、そして実際に面接に進んだのは15社です。多くの企業にプレエントリーした方がいいと先輩に言われていたので、志望の金融業界に絞らずメーカーや不動産などいろんな業界にプレエントリーしました。後々、面接で落ちてどこも受けるところがなくなってしまうのは避けたかったからです。多くの企業にプレエントリーしたことは、心の余裕にもつながりました。

遠藤 神谷さんのお話に「採用実績校」という言葉が出

てきました。採用実績がある企業の方が、内定を取れる確率も高いという判断ですね。「俺が採用実績作ってやるぜ」みたいな思いはなかったのですか（会場笑）。

神谷 ありました。でも、そうして挑んだ企業は「自分がパイオニアになる」という思いが強くて、緊張して質問の意図に沿った受け答えができませんでした。

3月以降は企業説明会めぐり

遠藤 会社説明会はどのくらい参加しましたか。

河西 合同企業説明会は3月に1回だけ参加しました。企業ごとの説明会は3月から5月にかけて37社ほどです。学内企業説明会にも参加して1日に5社くらいから話を聞きましたので、それら全てで50社くらいの説明を聞きました。

菅原 私は合同企業説明会に10回くらい、個別の会社説明会に25社、学内企業説明会にも参加し、トータルで100社程度の企業説明を聞きました。

神谷 私は合同企業説明会は1回です。会社ごとには10社ほど、学内企業説明会は神田も生田も参加して、そこで30社ほどの説明を受けました。

遠藤 皆さん、学内企業説明会をかなり有効に活用しましたね。河西さんは合同企業説明会は1回しか行きませんでした。その違いは何でしょう。

河西 3月1日に合同企業説明会に参加しましたが、人の多さに圧倒されたのかその後風邪をひいてしまいました。学内企業説明会は専修大学の学生に向けたもので、少人数を相手に企業の方が親身になって話していただけるので有意義でした。

遠藤 模範回答ありがとうございます（会場笑）。神谷さんはいかがですか。

神谷 学内企業説明会は交通費と時間を抑えて多くの企業を見て回れる点、採用担当者と近い距離で話することができる点、気楽に参加できる点がメリットだと思います。

Uターン就職、距離の壁をどう乗り越える

遠藤 菅原さんは宮城県でも就職活動をされていたのですが、交通費はかなりかかりましたか。

菅原 学割で新幹線を利用しましたが、交通費だけで合計20万円ほどかかりました。1回の帰省でまとめて1日2、3社の説明会を回りました。



遠藤 自治体によってはUターン就職を推進するために、交通費を補助する制度を設けているところもあります。山形県や新潟県…宮城県もありますが、制度は利用しましたか。

菅原 就職活動が終わる頃にその制度を知って…驚愕しました（会場笑）。

遠藤 県だけでなく市や町単位でもやっているところがあるので、ホームページ等で調べてみるといいですね。また北海道では航空会社エア・ドゥが就職活動生の特別割引を設定しています。

女子学生の会社選びポイント

遠藤 結婚、出産、育児というライフイベントもありますが、河西さんは企業選びや職種選び、どのようなところを意識されましたか。

河西 ずっと働いてきた母からは、育児休暇は気にした方がいいよというアドバイスをもらいました。ゼミナールでは女性活躍や子育ての推進をしている企業について研究しましたが、その知識を生かし、企業を見る際は「くるみマーク」「えるぼし認定」があるかも判断材料にしました。制度があっても実際には利用されていないというケースもあるので、面接で育児休暇の利用状況や社内の雰囲気なども質問しました。

面接スタートは6月よりもずっと早い

遠藤 経団連の指針では面接は6月1日からですが、それ以前から始まっているのが実態です。皆さんはいつから始まりましたか。

神谷 コンサルティング業界、人材派遣業界、IT業界、ベンチャー企業は3月から始まるころが多かったと思います。

菅原 3月下旬から始まり、企業側は「面接」とは言わず「面談」と言っていました。

河西 2月の1週目から始まっていました。インターンシップ参加者限定で書類選考して、3月に入ったら生保はリクレーター面談をカフェなどで行っていました。学生時代に頑張ったことなどを聞かれました。

遠藤 6月1日よりずっと前に、きちんと自分を語れるように準備しておかなければいけないということですね。

苦勞したこと、失敗したこと

遠藤 就職活動での苦勞や反省点はありますか。

神谷 エントリーシートの作成や業界の決定、面接対策に苦勞しました。でもこれは就職課を活用すれば、解決できます。

遠藤 河西さんは、失敗したことはありますか。

河西 電車の遅延で説明会に遅れてしまったことです。電話すると企業の方からは「慌てずに来てください」という優しい言葉をいただきましたが、説明会に途中で入

るのはすごく恥ずかしかったです。それからは事前にルートも探しておくようにしました。またインターネットのマップなどで周囲の建物もチェックして、迷わないように対策しました。

就活で成長したこと

遠藤 就職活動を経て成長できたと思いますか。神谷さん、感じたところがあればお聞かせください。

神谷 興味関心の幅が広がったという点で成長できたと感じています。例えば、以前はアニメに対して偏見がありました。広告代理店のインターンシップに参加したときに、アニメのライセンス事業が面白いと思いました。それからアニメを知るために声優のアルバイトに挑戦したりもしました。

遠藤 どういった社会人になりたいか。河西さんお聞かせ願えますか。

河西 銀行員として、金融面で人の幸せをサポートしていきたいです。高校時代から銀行員を目指し、大学でもファイナンスを学んだので、それらを生かしたいと思っています。

学生とご父母へのメッセージ

遠藤 最後に、湊さんと磯さん、学生たちへのメッセージと会場にお集まりのご父母になにかアドバイスがあればお願いします。

湊 内定が決まった学生は、5年後、10年後を見据えて卒業までに何かを掴み取っていただきたいです。それと保護者の方へのアドバイスですが、1、2年生のご父母



は子供の単位を気にされた方がいいと思います。3年生の後半に一生懸命単位を取らなければいけない状況だと就職活動で苦労しますので、その辺りをお子さんにアドバイスされるといいかと思います。

磯 会社に入ると自由な時間が少なくなりますので、内定された学生には最後の学生生活でいろんなチャレンジをしてもらいたいです。それと、部屋の片づけや時間管理など基礎的な人間力を積み上げてほしいです。そして親御さんへお伝えすることとしては、子供とのコミュニケーションでは「親の質問力」を高める必要があると思っています。息子に「就活はどうなの？」と尋ねると「別に」という返事しか返ってきません。そうした漠然とした聞き方でなく、「どの業界を考えているの？〇〇業界のことはよく知らないけど、どんな仕事をするの？何ができそう？どんなことが面白そう？」と、具体的に上手に子供の考えを引き出す質問力を身に付けられるといいなと思っています。特に先入観で「〇〇業界はダメだろう」といきなりの否定はやめた方がいいと思います。

遠藤 皆さん、どうもありがとうございました。